



らしい

く

いのべーしょん

農業の見える化改革へ
～100億円の食市場拡大～

行政経営戦略研修D班 チーム「びじぶる」

福井県 福井農林総合事務所 松山 哲也

奥越健康福祉センター 廣田 竜亮

高規格道路推進課 野口 裕揮

勝山市 総務課 須見 大二郎

目次

1 要約 「地域産業イノベーション」 への取組み	1P
2 現状分析	
2-1 福井県内の産業について	2P
2-2 イノベーションとは	3P
2-3 食をとりまくイノベーションの取組み	3P
3 課題分析	
3-1 食に関する課題の抽出	4P
3-2 食に関するクロスSWOT分析	6P
4 政策提案	7P
4-1 誰でも作れる農作事業	8P
4-2 おいしいふくいマルシェ事業	13P
4-3 事業効果のまとめ	17P
5 終わりに	18P

1 要 約

1.テーマ 地域産業イノベーション(AI・IoT・ビッグデータの活用)



2.趣 旨 食産業にまつわるイノベーションの機会を捉え、
市場規模の100億円拡大を目指す。



3.現 状 (1)農業の相対的地位が弱まっている。…「生産」にチャンス
(2)食の消費主体が高齢化している。……「消費」にチャンス



4.課 題 (1)深刻な農業生産力の低さ
(2)消費者志向のシフトと買い物弱者対策



5.政 策 (1)誰でも作れる農作事業
(2)おいしいふくいマルシェ事業

2 現状分析

2-1 福井県内の産業について

①産業別生産額の推移 [円]

産業	H7	H26	増減率
第1次	963億	572億	△59%
うち農業	729億	436億	△59%
うち林業	97億	54億	△55%
うち水産業	138億	82億	△59%
第2次	2.6兆	2.4兆	△8%
第3次	3.5兆	3.3兆	△6%

福井県「県民経済計算」

①産業別生産額の推移

金額・割合ともに農業の落ち込みが顕著

↓
食料供給の基盤がなくなり、
私たちの生活に直結

②農業所得率の推移

	H7	H27	増減率
全国	38%	28%	△10ポイント
福井県	39%	18%	△21ポイント

北陸農政局「福井農林水産統計年報」

③農業就業者の推移 [万人]

	H12	H27	増減率
全国	389	209	△46%
福井県	4.1	2.3	△43%

農林水産省「農林業センサス」

②農業所得率の推移

③農業就業者の推移

農業所得と農業就業者が共に下落

↓
農業が産業として崩壊する危険性

④高齢者の人口割合の推移 [万人]

年代	H29	H32	H42	H52	H62
0-64	72.6%	70.9%	68.4%	63.9%	61.2%
65以上	27.4%	29.1%	31.6%	36.1%	38.8%
総人口	12,679	12,410	11,662	10,728	9,708

内閣府「平成28年版高齢社会白書」

④高齢者の人口割合の推移

高齢者の割合は増加する一方

↓
消費者としても存在感が増大

2 現状分析

2-2 イノベーションとは…



2-3 食をとりまくイノベーションの取組み

先進技術	AI	IoT	ビッグデータ
名 称	(名称①)	(名称②)	(名称③)
概 要	(概要①)	(概要②)	(概要③)
目 的	(目的①)	(目的②)	(目的③)



キーワードは「見える化」

3 課題分析

3-1 食に関する課題の抽出①

課題

農業の生産力の強化を図り持続的産業への発展を考える。

現状

事実1	福井県は稲作中心であり地産地消率低い (H27福井県コメ生産割合 60.3%) (H22福井県地産地消率 60.0%)
事実2	福井県の耕地整備率は全国2位 (H23全国62.8% 福井県 88.5%)
事実3	園芸作物は水稻と比べ単価が高い (園芸 5.5百万円/ha 水稻 1.0百万円/ha)
事実4	園芸作物にはノウハウが必要 (園芸 カレッジインタビュー結果 より)
事実5	福井県の気候は園芸作物に不向き (降水量 8位 日照時間 37位 平均気温 35位)

考察

福井県は農業基盤はあるものの、園芸を進めるためのハードルが高い！

方向性

匠の技の「見える化」を推し進め、県産野菜のシェアを伸ばす。

3 課題分析

3-1 食に関する課題の抽出②

課題

消費者として存在感を増す高齢者層への働きかけを考える。

現状

事実1	食市場のターゲットは若年層・中高年層 (インタビュー結果より)
事実2	高齢者の9割は施設入所しない「元気な高齢者」 (H27要介護度1未満の高齢者の割合88.0%)
事実3	元気な高齢者たちの消費志向に一定の傾向 街頭アンケート結果(その1) 食で重視すること①健康32% ②安心安全22% ③国産品13%
事実4	福井県でも高齢の買い物弱者が増加 (福井県の60歳以上の買い物弱者約5.0万人 ※推計値) 街頭アンケート結果(その2) ①買い物は家族がしている40% ②食事の準備は家族がしている38%

考察

健康のために食へのこだわりを見せるものの、
商品ラインナップやアクセス環境が不十分！

方向性

潜在的需要を「見える化」し、元気な高齢者層の機会ロスを捉える。

3 課題分析

3-2 福井県内の食産業についてクロスSWOT分析を実施

食産業関連

機会 (O)

- ①ニーズの多様化
- ②先進技術 (AI、IoT、ビッグデータ等)
- ③元気な高齢者

脅威 (T)

- ①高齢化問題
- ②市場規模の縮小
- ③買い物弱者

強み (S)

- ①ふくい園芸カレッジ
- ②健康長寿
- ③健幸美食事業

弱み (W)

- ①農家の低収入
- ②稲作中心の農業
- ③園芸に不向きな気候

誰でも作れる
農作事業

おいしい
ふくい
マルシェ事業

4 政策提案

政策1

誰でも作れる農作事業

～匠の技の「見える化」を推し進め、県産野菜のシェアを伸ばす～

- ① データ蓄積による「見える化」推進
- ② 園芸ノウハウの販売システムの構築
- ③ 低リスクな園芸栽培管理の実現
- ④ 安心・安全ICTシステムの構築

生産額 ↑

政策2

おいしいふくいマルシェ事業

～潜在的需要を「見える化」し、元気な高齢者の機会ロスを捉える～

- ① 健康状態別コースメニューの機会の提供
- ② 既存事業者の参入による買い物弱者対策
- ③ ふくいの健康食「お福ろ膳」の展開

消費額 ↑

4 政策提案

4-1 誰でも作れる農作事業

① データ蓄積による「見える化」推進

ふくい園芸
カレッジ職員
インタビュー

- 勘や経験に頼る部分をAIが判断できると良いですね。
- AIの判断には、多大な情報量とその情報処理者が必要になる。



食のAI課（園芸カレッジ内に創設）



①データの収集・解析

栽培管理システムの
構築



見える化
ポイント

②解析結果を現場で実証

園芸に必要なデータを収集・実証・蓄積し「見える化」

福井県の気候に適した栽培技術の情報基盤づくり

4 政策提案

4-1 誰でも作れる農作事業

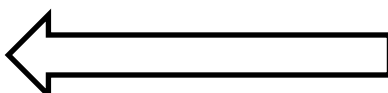
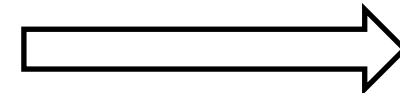
② 園芸ノウハウの販売システムの構築

見える化
ポイント



匠の技の収集

- ② 発育主因データ
- ③ 農作業の工程管理



- ① センサー等の貸与
- ④ データ買い取り



熟練農家のもつ匠の技（経験則）を「見える化」

匠の技を知的財産として買い取る。

4 政策提案

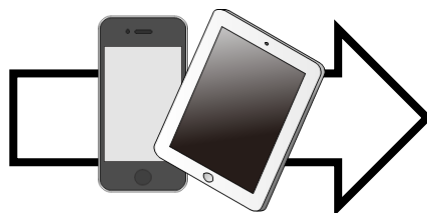
4-1 誰でも作れる農作事業

③ 低リスクな園芸栽培管理の実現



見える化
ポイント

栽培アプリケーション



栽培アプリにより、新たに園芸に取り組む農家への「見える化」

生産性の向上、園芸への転作を推進

4 政策提案

4-1 誰でも作れる農作事業

④ 安心・安全ICTシステムの構築



栽培アプリにより、出荷物の農法・生産者の顔の「見える化」

4 政策提案

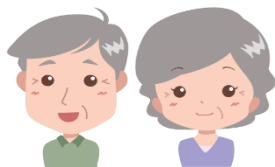
4-1 誰でも作れる農作事業【事業効果】

① 水稻の面積あたりの産出額 100万円/ha	}	転作による産出差額
② 野菜の面積あたりの産出額 550万円/ha		<u>450万円/ha</u>
③ 県内の1 稲作農家の経営面積（平均）	→	<u>1.9ha/農家</u>
④ 1 稲作農家の野菜の転作割合	→	<u>10%</u>
1 稲作農家あたりの産出増額	→	<u>85万円/農家</u>
⑤ 県内の全稲作農家の数	→	<u>12,000農家</u>
年間生産増額の目標値	→	<u>100億円/年</u>

4 政策提案

4-2 おいしいふくいマルシェ事業

元気な高齢者への
アンケート
(210人)



食には 「健康」 を重視(32%)
「安心安全」 を重視(22%)
「国産品」 を重視(13%)

買い物は 「家族」 に頼る (40%)
「宅食」 に頼る (9%)



元気な高齢者の持つ志向を「見える化」し機会として捉える。

(事業者①) へのインタビュー

(インタビュー結果①)

(事業者②) へのインタビュー

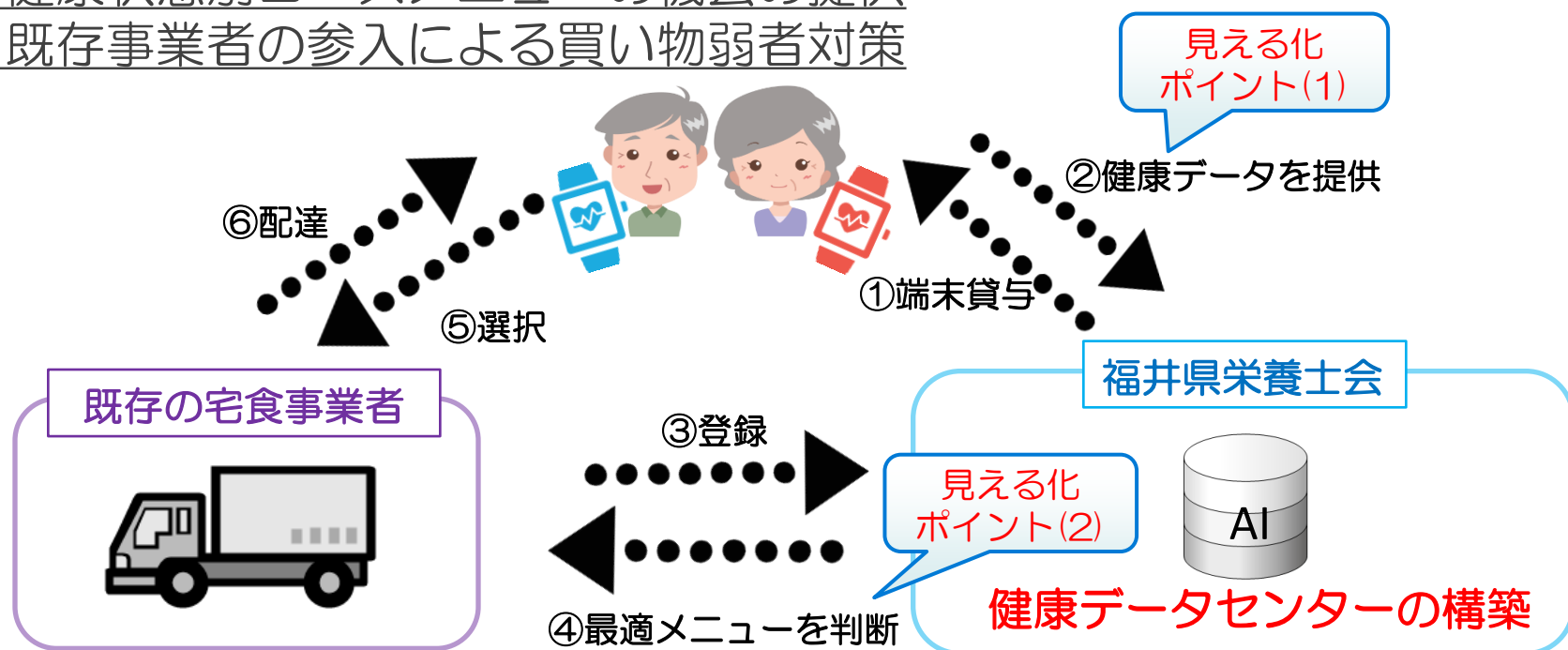
(インタビュー結果②)



4 政策提案

4-2 おいしいふくいマルシェ事業

- ① 健康状態別コースメニューの機会の提供
- ② 既存事業者の参入による買い物弱者対策



(1) ウェアラブル端末による健康状態の「見える化」

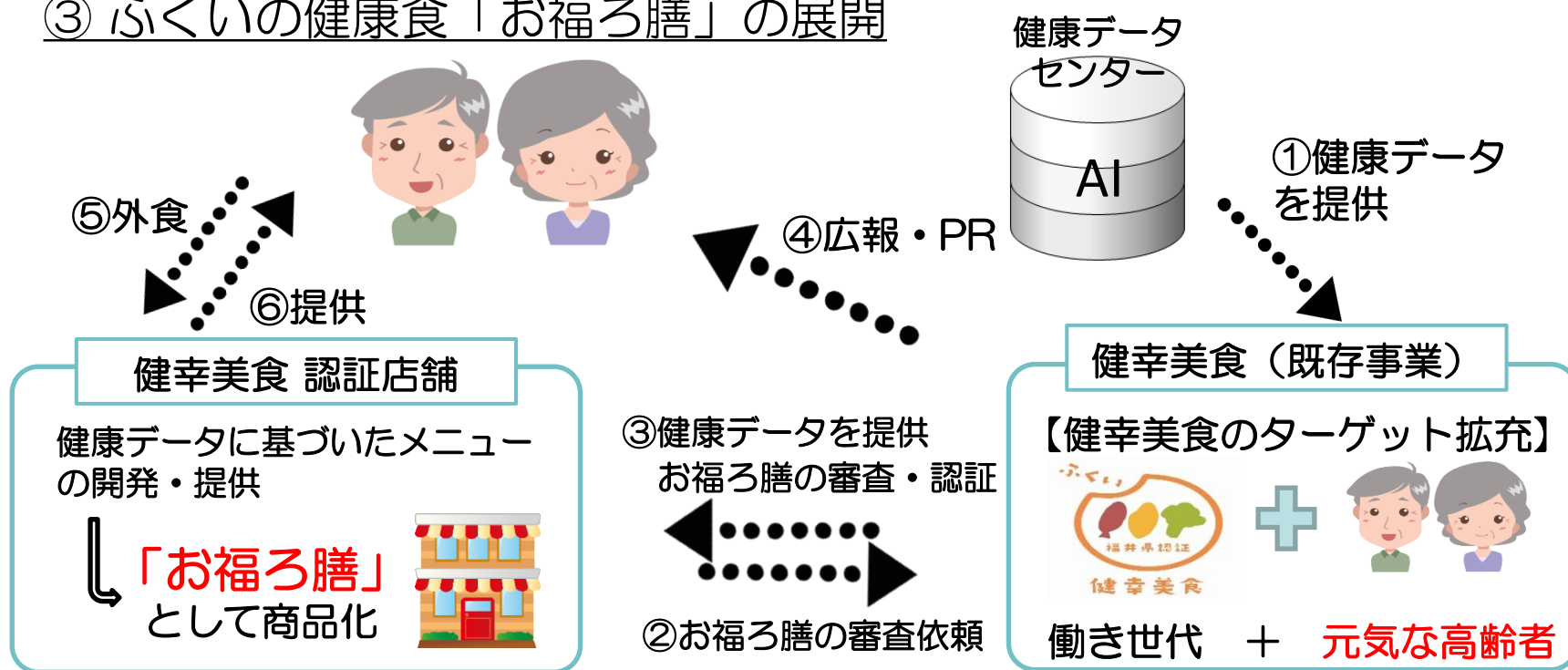
(2) 健康状態に応じたメニューの「見える化」

買い物弱者向けの食産業の消費規模拡大を図る。

4 政策提案

4-2 おいしいふくいマルシェ事業

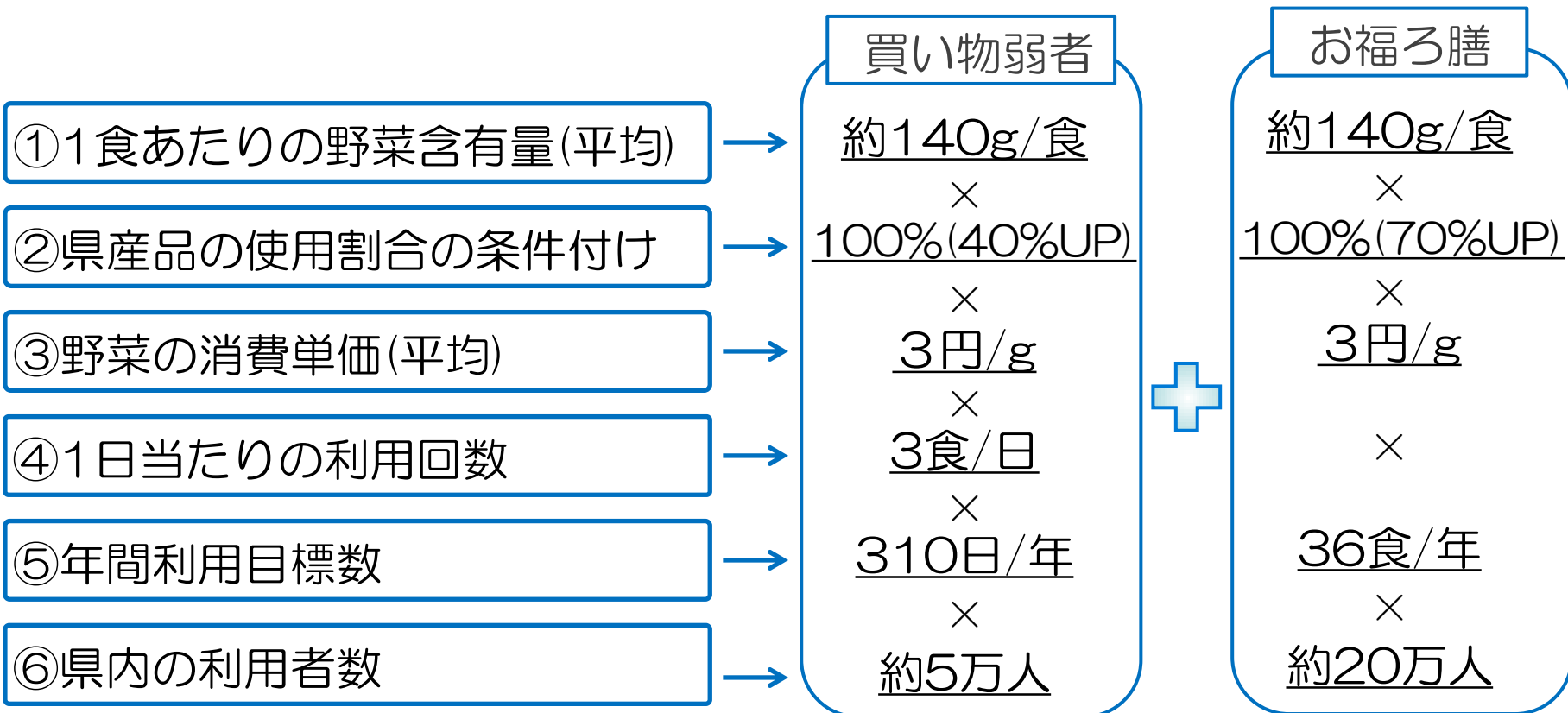
③ ふくいの健康食「お福ろ膳」の展開



元気な高齢者への「お福ろ膳」の提供により消費規模拡大を図る。

4 政策提案

4-2 おいしいふくいマルシェ事業【事業効果】



年間消費増額の日標値



100億円/年

4 政策提案

4-3 事業効果のまとめ

政策1 誰でも作れる農作事業

100億円
(生産額UP)

県内消費100%を目標

政策2 おいしいふくい
マルシェ事業

100億円
(消費額UP)

5 終わりに

私たちの班の研究テーマは「地域産業イノベーション」ですが、これを分解すると「地域産業」+「イノベーション」となります。そのため、まずイノベーションの定義を理解するところから研究活動が始まり、その次に地域産業の特徴をつかんで事業の方向性を定める作業に大幅に時間が割かれました。

今日、ここまでの政策をご提案できたのも、異なる職種の班員が各々アイデアを出し合い、また、私たちの取材活動に快く応じて頂いたすべての関係者の皆さまのご鞭撻があってこそだと存じています。

福井県をとりまく内部環境については、特に人口動態(突き進む高齢化)が大きなインパクトを持っていますが、こういった課題はイノベーションの観点からはチャンスともなり得ます。

私たちのアイデアが根幹となって、まだ県内に人的ストックがあるうちに先を見据えた一手を打っていけることを目標として、発表を終わらせていただきます。

ありがとうございました。